夕刊　磐城新聞
八月二十日發行
定價　一ヶ月金六十五錢（郵税金十錢）
廣告料金　一行金六十錢　一行金九十錢（場所指定一行金一圓）
編輯印刷兼發行人　柏木哲　福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所　磐城新聞合資會社
電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

七夕（星祭）

哲名山人

上

年中行事として、また、七夕はめぐつて來ました。我が平町も先輩仙臺市のお株を奪つて、名物となり、本年は商工會のあとおしで、大部各地に宣傳され、各商店は今や必至の努ひで、一家總動員して製作に餘念がないのである、さてこの玉手箱が開かれたら、さぞ吃驚するであらふ、これ偏に昨年『七夕歌』を選ばれてこのトップを切つた磐城新聞の功績も亦見逃がすことは出來まい

七夕祭の催しも各々の見地から千態萬様であるが然しこれは七夕の傳説に因んだ方がよいと思ふから左にその傳説と先輩の詩歌をしるしてみる（この星のローマンスは、印度にもあるが支那の方が本當らしい、廿八宿の内にあらはれて、織女を須女と、牽牛を河鼓と改名して居るのでも解るのである）

昔、天の川の東に美しい娘が居つた、機織に巧みで日毎氣々々に雲霧綃綉の衣をおる事に精進し、わが身をとりつくらふ暇もない有様であつた、天帝その操守をあはれみて河西の牽牛に嫁はしめた、すると牽牛の愛に溺れて様々はたおる事もしない、天帝之を見て大に怒り泣きすがる二人のなかをさいて河東につれ歸つた、その後流石にあはれと思つたか、せめて一年一度のつれなき逢瀬をおゆるしになつた、其の日が即ち七夕である。この宵、鵲が橋をつくつて、二人の逢瀬の媒をするといふ物語りである。又一説には下界の美しい娘が牽牛に嫁入して天上に行き母との別離を惜しみて一年に一度、既ち七月七日夕に家上にしるしてくれとのたのみに母なる人は竹の葉に五色の色紙歌をかきつけ天上の娘によびかけたとも言ふ

雨あがり

上原清

ほーら
お空が晴れて來る
雨もすつかり止みました
お庭に出來た水たまり
きれいな空がうつゝてら
かせが
すゞしく吹いて來る
キラ〳〵雫が落ちました
お山でカナ〳〵うれしそに
カナ〳〵〳〵と鳴いてゐら
虹が
きれいにかゝつてる
夕やけ小やけになりました
お家へかへるカラスでしよ
みんな啼き〳〵とんでゐら

句帳から

溪谷

晴れきつて猶は篠の子の持つしめり
青嵐や礎石の散に史をたゝく
鹽山の此蟻地獄除くべし
岨道に薄暮の雨や時鳥　左馬
そゝり立つ岩幾十丈や苔の花
辿り來しうばふところや蟻地獄　岩丈
老鶯や笹縱深き坊の跡

七夕俳句大會

日時、八月廿三日午後二時より
會場、平町城山聚樂園
會費、二十五錢
課歌、『天の川』三句
主催　青蔭發行所
後援　磐城新聞社

下部溫泉

上原清

二

湯の中には男も女も皆ぎつしりと、つき合つてまけりによりかかり体を中の方へのばして居る。ぬるいのに体がじーつとほてつて來る、汗がじり〳〵と出て來る、人の体温が妖しい熱をほる。たまらなくなつた様に若い女が立上る、白い肌に湯氣がはつて居る。そゝくさと出て行つた。一人の爺さんの浪花節がこのいきれた空氣を救つた。澁い低い影を追ふ様な聲がこの人々の心を靜めた、ほとんど白い光が無くなつた。女中が手燭を持つて來る

体温と体臭のいきれ
湯氣がのた打ちまはる
ふくよかな身
肌ざはり

じーつと妖しくもほてる

湯より上れば既に夕食の用意あり、この川にて採れるとか山べのしほやきに舌づゝみ打つ、食後らんかんに倚りて町の姿を見入る。何處よりか尺八の音も聞えて來る

冬川の音は益々さえて、ザツザ、ザツザと絶わす流る、あちらこちらに灯がともり、水にくだけて美し

さえぎられた空には星多く輝く。持ち來しアッコーデオンに靜かな樂を浮べて詩調を流す

灯はともる
流れの音はさえる
湯の町の朱塗の橋
柳の下の町の女
湯氣は上る
流れの音はさえる
溫泉宿の手すりのタオル
湯上りの女の白い足

8月21日
△元の忽必烈蒙古帝國を統一（一、二六四）△薩藩士生麥に英人を斬る（文久三）△官軍若松へ進攻（明治元）△米アリゾナ州の邦人排斥惡化（昭和九）△海藻學の岡村金太郎逝く（同一〇）

唁小松君失長女

珠雲　小野鶴亭

弱齡努力志興家
嘖々今評避逕加
畢竟麗人多薄命
曉風吹落石榴花

小説　高橋是清 (97)

松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

驛遞寮・浪人（二）

東京へ戻ると同時に、舊名六之助鈴木知雄の紹介で、驛遞寮の前島密と會ひ、飜譯方面の係として、驛遞寮入りを決定した

驛遞寮は當時大藏省の管下にあり、舊遞信省跡にあつた。時の大藏大輔は井上馨だつた。和喜次が辭令を受けに行くと

『確かり頼むぞ。宜いか』

言つて、辭令を渡して呉れた。辭令の表面には

『大藏省十等出仕を命ず』

とあつた

が、自由の奔放さ、こゝも永續きはしなかつた

漸く所屬も決り、毎日出勤するやうになつた一日、向ひ合つた席にゐる。五島と言ふ課長が、西の内をつぎ合した、日本橋の橋詰へ貼出す、告知用紙を、和喜次の前へ投出すやうに置いて

『至急告知文を——』

と、命じた。無論それには專任の者もゐたし、漢字は苦手の和喜次だつたので

『迚も——』

と、拒むと

『宜いから書きたまへ！』

五島は叱咤するやうに言つた

『書けませんな』

和喜次は癇の虫に誘はれてゐたので

『第一今日まで手習ひと言ふ奴を、した事がありませんのでな』

『そんな事を聞いてやせん命令通りに書けば宜敷いのだ』

『然し、そりやあ無理と言ふもんぢやありませんかな！』

『命令を拒むのか、君は』

『拒みはせん。然し……』

『書け』

『よし！』

和喜次は遂に爆發して了つた。わざと落付いて

『では一ツ、手習ひをした上で……』

せゝら笑つて筆を執るとどつぷり墨汁を含ませた筆を、紙上へ叩きつけるやうにして、ぐるぐるッと引きまわして、わッはッ……と哄笑した、紙上には——へのへのもへじ

が、笑つてゐた

五島課長以下全員、茫然としてこの若僧の背姿を見送つてゐた

その後、和喜次は暫らく休んでゐたが、出て見ると前島密が、

『君に少し依頼して置きたい件がある』

と、和喜次を呼んで、今後本寮では、通辯翻譯事務が益々多くなり、一人では手不足を免れまいと思ふので、君以外にもう一人誰か適當な人物を探しておいて欲しい……と、依賴した

引受けはしたが當時外人の通辯を勤め得る人物は、無闇には發見されなかつた

考へて見ると、曾つて大學南校教官當時、親交のあつた同僚に、鳴池宜之と云ふ、溫厚な官員型の男のゐた事が思ひ出された

（あの男なら向くだらう）

が、既に大學南校にはゐなかつた。探してみると、華族學校に教鞭を執つてゐる事が判つた。和喜次は直ぐ訪ねて行つて、前後の事情を説いた上

『どうだ、學校をやめる氣はないか、仲々面白いぞ』

と、すゝめてみた。二三度會ふ中に、鳴池の心も動いて、轉職の決意が成つた

『やッ有難う。これで俺の顏も立つと云ふ譯だ』

直ぐ前島に話すと、與に意外な言葉が待つてゐた

『笑談はやめんか。君ですら今では不用に近いんだこの上もう一人採用などと莫迦によさんか』

と、まだ長官も、課長も課員も、悉く一部屋にゐた當時の、その満座の中で、前島密が、嘲いた

『何ッ』

和喜次は激怒して立上つた

廣告

天下一品マヅイ　素人料理
おでん　榮ちやん
酒にやき鳥　冷ビールにサイダー
平・新田町・電三三番

高久病院
院長　高久忠
平町田町電五一三

公社債株式現物賣買
照山株式平支店
主任　常盤光威
福島縣平町田町五
振替東京八八一六三番
電話四十六番

小店員募集（十五、六才）
委細面談

美味デ滋養分豊富ナにんべんノ
新鰹魚節ガ出來マシタ。
宍戸屋商店
平町四丁目
電話（鹽干部）二一五番（鮮魚部）四〇七番

日華生命保険株式會社代理店
外務社員募集
（委細面談）

御中元仕着せ用品の大賣出し
全店清新たる夏の商品豊富!!
絶好の特賣品!!
八月十七日ヨリ七日間

…獨特のおつこめ品…

結城縞　金七十錢
越後上布　金七十八錢
ジョゼット小紋　金一圓五十錢
本染中形　金一圓五十錢
絹麻小紋　金三圓
夏セル　金二圓八十錢
最新柄パラマウント友仙（一丈モノ）　金七十八錢
着尺モスリン　金二圓五十錢
東京中形　金九十五錢
銘仙男女向　金二圓五十錢

盆踊用に文化手拭と粋な件天…新發賣
いま流行の日本一手拭と粋な踊り件天を陳列して御座います。是非御覧の上御用命下さい。

雜貨洋品大廉賣
あらゆる雜貨洋品、タオル箱入、敷布箱入など贈答品に適當な御値段の品が豊富に取揃へて御座います。

京呉服赤札附特賣
高級な西陣製品を思ひ切つた赤札是非御用命下さい。

御贈答にこれが一番御重寶な商品券

三井呉服店
平町　電話三八・二八四番

御中元御贈答品御案内
先づ最も便利な
商品切手
タヲル箱入3本入5本入6本入　半布箱入1打入半打入　靴下1打入半打入
ワイシャツ及び下着シャツ類
其の他化粧品・石鹸・洋品類
◇實用向贈答品◇
店内に澤山陳列して御座います。是非御來店願ひます。
ツルヤ
平　電一四〇

お盆提灯大賣出し
絹張燈、牡丹行燈、都行燈、御殿行燈、スダレ行燈、二連行燈、紋天行燈、猫足行燈、其他變り形
他店にては見られぬ特約品澤山取揃へました。
平町四丁目角
菅野屋商店
電話一五七
遠近不拘見本は持參いたします。

創業以來茲に二十年皆々様の深甚なる御引立に相成り誠に有難く厚く御禮申上ます。私は創業前東京技藝校を卒へ造花の研究を致して居りますが未だ一人前の藝術家として立つ事が出來ず御滿足を與へる事が出來ません。此後皆様の御指導の下に一層研究致し度御批判の上御引立御鞭撻下さいます様切に御願ひ申上ます。
店主　山田信次

祝弔　造花調製
■祖先崇拜は家庭繁榮の礎■
山光堂

佛壇　金物佛具品
塗位牌
取揃へて有ります。
◎お盆の御用意は！
平四丁目通り　電話五五〇番

舊七月一日ヨリ
佛壇及佛器具各種賣出し
舊盆！
年に一度の佛の供養に何人樣にも御準備を！
種目
佛壇、位牌、佛膳、佛椀、經机
高杯、茶湯臺、木魚、撞木、經本
珠數、過去帳、輪及臺、線香立、花立
常花、香爐、佛器、ローソク立
新盆の御家庭へ贈つて喜ばれる佛器具を御勸め致します。
平町三丁目
丸ほん商店
電話三五九番

御日燒けの御顏の御手當に就て
海水浴の御日燒け、殘暑の御日燒け等は、御顏の『美』を一層傷つけるもので御座いますから、其の際は必ず御手當が必要で御座います。私共の化粧院は御日燒けには獨特のオゾン理容法による御手當を致しまして皆樣が御滿足のいく限りの御化粧に努めて居ります。
海水浴の御歸り、或は殘暑の御日燒けの御手當には是非水野化粧院迄御立寄下さいませ。
昭和十一年八月
平驛前
美容結髪　水野化粧院
主　水野冬子
電話六七八番
自宅　平町四軒町水野商店　電話五二五番

小口金融開始御案内
最近小口金融ノ御申込ガ増加シテ參リマシタノデ此度其業務ヲ開始シ特別ニ便宜ヲ御計ヒ致シマス。精々御利用願ヒマス、取扱ノ大要ハ左ノ通リデス。
一、金額　五十圓以上五百圓迄
一、期限　一ケ年以内
一、償還方法　月賦拂、或ハ一時拂
一、申込資格　商工業者、俸給生活者
一、區域　平町及附近
一、條件　保證人二名、擔保付ハ條件簡易
其他詳細ハ何卒御問合セ下サイ。
昭和十一年八月
株式會社七十七銀行平支店
電話二三一・四一四番

天地冷涼の氣に滿ち 秋は靜かに忍び寄る

平年より稍々早目に來た——と 小名濱測候所の陽氣打診

實れ、秋——立秋を過ぎてからは氣候的にも觀念的にも秋とはなつたが、こゝ二三日は滅法朝晩が涼しくなり平町地方は昨十九日朝が十五度七分（華氏六十度二六）今二十日朝は幾分それより溫かつたが何れにせよ八月中の氣溫としては少々低過ぎる溫度を示した寧ろ涼しいといふ言葉より寒かつたといふ方が適當するが餘りにも變化的な氣候に町民は一寸驚いてゐる、しかし日中はまだ相當に灼け十九日の最高溫度は華氏八十度內外で夏の氣分はまだ深いが、この調子でぐん／＼秋が深まつて行くかと思へば北國に住む人々の何れもそゞろに感傷を覺ゆるであらう、なほ稻作は先程の炎暑で大分成育順調だが、除り早冷では稍懸念されぬでもない、小名濱測候所の話

『今までは南海上にあつた高氣壓が北上して北日本から千島方面に移動した爲め風が北寄りに變りこんなに涼しくなつたのです、最早夏の型を脫して完全に秋の氣壓配置ですが平年に比して稍早目の秋といつてよいでせう』

電柱移轉問題

七千圓負擔せよ

磐炭側の回答に對し 平町委員近く交渉

平第四小學校敷地を通る磐城炭礦送電線の電柱移轉問題は過般來再三交渉を進めてゐたが纏らず此程會社側から移轉費約一萬圓の七割を負擔して欲しいとの最後的回答があつたので町では委員會にかけて種々對策を協議した結果、兩三日中委員一行が會社側と交渉を進める事となつた

然たるものあると

税務講習會 小名濱町で

石城郡税務振興協會主催の收入役並に税務事務實習講習會は來る二十五、六の兩日小名濱町小學校に開き講師として縣地方課富澤事務官、庶務課伊藤主事臨席

參加延五萬六千

平町ラヂオ体操會終る

今夏平町ラヂオ体操の會は去る一日開會、盛況裡に今二十日を以て終了したが二十日間の參加人員は左の如く延五萬六千六百三十一名で昨年の四萬六千四百八十二名に比し約一萬名（二割强）の增となつてゐる、皆勤は約五百名增の千六百二十三名で一般參加の皆勤者には中局より記念品（手拭）を贈られた

△第一校＝第一兒童一二、八九〇 同皆勤四〇八 第二兒童一三、九三九 同皆勤五二八 一般四、〇九五 同皆勤一五二 合計三〇、二二四 同皆勤一、〇八八

△第三校＝第三兒童二〇、七五五 同皆勤四五〇 一般五、六五二 同皆勤一八五 合計二六、四〇七 同皆勤六三五

工費廿五萬圓で 全面的改修着工

鮫川水路の設計成る

種々の關係から繼續工事の延びてゐた鮫川堰改修は設計も成つたので愈よ來月早々着工する事となり目下諸般の準備を進めてゐるが總工費二十五萬圓、上遠野村瀧川內から繼續工事を起して泉村瀧尻迄の全線に亙り大改修を行ふもので竣功期間は今後二ヶ年であると

尚渡邊村釜戸と上遠野村瀧尻の境にある大サイホン二ヶ所の改修は縣當局のサイホン說に對し組合側では將來を考慮して懸樋說を固執してゐたが結局サイホン式で行ふ事となつた

舊盆を控へて 平登記所大童

舊盆を旬日の後に控へて平登記所の受理件數は平日の二、三十件に對して連日五六十件の數字を示し中ぜんの廳員何れも汗だくで處理に當つてゐるが、その主なるものは抵當權設定、不動產賣買、抵當權抹消等で現なまの把握に汲々たる盛況

山間部に珍らしい モダン大山橋竣工

けふ五十子技師檢查

石川—湯本線入遠野村大平地內大山橋は從來木橋で腐朽甚しかつたので平土木監督所で去る二月工費一萬一千餘圓を投じ工事を進めてゐたが、愈よ工成り今二十日縣土木課五十子技師が竣功檢査を行つた

新橋は延長二十八米、幅員五米五〇の鐵筋コンクリートで山間方部としてはモダンなものである

。。。。。本田巡查轉任。。。。。 平署內勤巡查本田敬治氏は今廿日付猪苗代署に轉勤を命せらる

賃貸價格改訂打合

平稅務署管內の賃貸價格改訂事務打合會は今二十日午前九時から同署樓上に開き各町村から約八十名出席

。。。。。齋藤司法主任出廲。。。。。 平署司法主任齋藤藤三氏は今二十日から二十九日迄福島檢事局で行はれる第一回司法主任事務實習會に出席した

米價愈よ騰るか？

あす俵米定期共販

石城販聯の俵米定期共販は明二十一日行はれるが出荷は左の如く九百九十九俵、相場は前回より高値を豫想されてゐる

平一號一七 二號九六 三號五〇 四號四〇 五號五〇 六號三〇 草野信用四〇 同二號五九 大野六九 鹿島七二 大浦一二一 同二號一二一 小川六〇 高久二五

平窪校同窓會

平窪小學校の第廿一回同窓會は來る廿三日の七夕當日午前九時から母校に開き懐舊談並に會員の研究發表等がある

區長會

平町區長會は二十二日午前十時から町會議事堂に開き來月十一、二兩日の防空演習其他を協議する

植田署水泳競技會

植田署では昨十九日正午より鮫川管內巡查を召集し水泳大會を催したが部外からの飛入等あり盛大であつた

私服警官七十餘名で 全管內に捜查陣

今曉平署の非常召集

平署の非常召集は昨十九日夜行はれた、正九時二十分發令と共に全管內七十餘名の私服警官は十一時迄本署に勢揃ひ、柴田署長指揮の下に平、小名濱、湯本、內郷の四班に分け今曉一時迄管地犯罪搜査に當つたが獲物は無く更に小名濱海岸で署長の訓示講評、陸上競技、競泳、綱引等に歡を盡し同町中島料亭新米で慰勞の宴を張つた

炭の値は騰る？

今後需要季に際し 專門家の觀測

年產二百萬俵、生產者四千名を算し數年前迄は斷然縣下一を誇つてゐた濱三郡木炭業界は其後生產者の減少から品不足を來し今夏の如きはその相場も『變動無し』と云ふ曾て見ない現象を呈した程で今後需要季に際する相場にも專門家は生產不足からストックのない處へもつて來て繭の値が高いのでその方へ懸命になり、從つて炭燒きの準備も從來より二ヶ月位遲れるだらうから需要季にありながら一層品不足を來すので相場もかへつて騰るだらうと從來に反した觀測を下して居り茲許お台所恐慌時代が來さうな形勢にある

受檢十三萬俵

去月中の三郡成績

尚濱三郡同業組合去月中の檢査俵數は（雙葉）六五、五〇二俵（石城）四九、一九九俵（相馬）一八、一三九俵 計一三二、八四〇俵で前年同期の十三萬二千四十八俵に比し七百九十二俵の增加

投檜

投書歡迎

鋪道を私する勿れ。。。。。

◇愈々二十二日から盆明けざる七夕の三晩は各方面から怒濤の如く雪崩れ込む見物人で恐らく本町通りは身動きもならぬ混雜を呈するだらうと云ふ豫想の下に、例年通り自動車の運轉區域も制限さるゝ事であらう

◇處で其れ以上の注文は本町筋の各商店がこの期間中店先きの鋪道を私せぬ事だ。と云ふのは普段店先から道路へハミ出して商品台自轉車、リヤカー、凉み台などを竝べ、其れが殆ど習慣になつてゐるからだ

◇最近の東日三角點にも之と同じ意味の希望が載つて居たが、これを警察の手で取締るとなると一寸角が立つから地元の商工會や青年分團の手などで豫め各戶の反省を求め更に當日の整理に任じたらどうか

◇七夕を暮れ市か何ぞの樣に心得、之の機會に於て商品をより賣り捌くと云つた機敏さは嘉すべきであるが、其の程度を越して道路に迄商品を竝べられては折角の張り込んだ七夕の見物も台無しになる、斯んな意味から當日は精々側溝の蓋の廢邊で我慢して貰ひ度い（お城山七夕耽美生）

國防靑年團

湯本町で 來る廿五日發會式

湯本町の中堅靑年四十名は國防靑年團を結成し二十五日夜湯本座で福島聯隊區司令部藤井中佐の講演と國防映畫會を兼ね發團式を擧げる、將來は靑年學校修了者を悉く網羅し國防思想普及許りでなく防護の第一線に活躍する、役員左の諸氏

團長椿昌親（敎練指導員） 田野俊男（學科指導員） 金士順二 矢吹文彌

ヶ所岩石に打つけ即死した

ミヨ子ちやん家出

小名濱町古港辰吉次女大山ミヨ子（二〇）さんは去る四月無斷家出したが最近に至つて附近の友達二名と共に東京市內の喫茶店に働いてゐるらしい事が判つ

加藤（臨時）銀行頭取病源判明

最近滅切り快方に向ひ 墓參の爲一時歸鄕

病名不明のまゝに先般來東京市西巢鴨二丁目癌研究所康樂病院に入院加療中だつた福島貯蓄銀行頭取加藤丈夫氏は其後鹽田博士外六博士の診察の結果漸く病源を發見治療に努めた結果最近メキ／＼快方に向つたので來る舊盆に墓參のため歸鄕、五六日滯在の上再び入院治療を受ける事となつた

電工墜死

小川發電所の變事

小川部村大日本電力株式會社小川發電所職工瀨尾德松（三三）は十七日午後七時頃發電所の水口水深百五十尺位の個所に墜落顏面その他數

躍り出た錯亂者 桑摘み婆さんを毆る

植田町佐糠海岸で

植田町本町龜田屋呉服店長男驚金一（三五）は豫て精神病者として家人が監視中十八日午後一時頃家を脫け出し同町台町成澤キセ（六二）が字佐糠の畑地で桑摘み中を襲ひ下駄を揮つて同人の顏面その他を毆打し全治二週間の重傷を負はしめ同人が悲鳴をあげて其筋へ訴へ出たので植田署から係官出張取押へ一方家人を呼出し嚴重注意する樣申渡した

たので目下家人が搜查中であると

鰯に中毒死

植田町添野富岡ヒデ（三六）は十七日午後六時頃夕食の鰯に中毒し植田町久保木醫院へ入院したが十八日午前十一時頃死亡した

植田校落成

昨十九日引渡し

新築中であつた植田小學校新校舍も愈々去る十七日落成したので昨十九日午前十時より町會議員立會の上引渡したが、尙は新講堂は愈々來・廿三日午後一時より上棟式を擧行する

時計泥起訴

近く平區で公判

時計屋荒し、當時住所不定無職鳥取縣米子市車尾生れ川崎市大島羽田龜太郎方日本鋼管職工陸軍步兵上等兵勳七等原田利衛（二八）は平檢事局濱田檢事の取調べを受けてゐたが左記三件を起訴され近く平區中島判事係りで公判開かれる

元と川崎市渡田カフェー襟方で女給をしてゐた妻四倉町生れ鈴木ツタ子（二〇）の跡を追ふて四倉に來たが旅費に窮し八月九日早朝湯本町三函大槻秀雄方に忍び入り時計六個現金、同十三日夜四倉町本町增淵賞方から洋服、萬年筆、同夜一時頃同町時計商瀨谷友林方から時計十三點（價格百九圓）を窃取遊興に費消したもの

敍任辭令

平郵便局通信局通信技手兼遞信技手 小林太一
仙臺遞信局在勤を命ず
仙臺郵便局電信課主事を命ず
盛岡郵便局同 渡邊三郎
平郵便局在勤を命ず
平郵便局主事を命ず

天氣豫報（小名濱測候所發表）

今晚は北東の風晴、明日は東の風曇

二十一日（小名濱測候所發表）
日出 五、〇〇 月出 前 八、四二
日沒 六、二〇 月沒 後 七、五九
滿潮 前五、三五 後五、五〇 干潮 前 一一、四五

新八月二十一日 金曜 舊七月五日 乙亥 大安 平 亢宿

廣告

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館
▲一白 苦勞して歸れば福利內に來りて待つが如し ▲二黑 目上の引立に依り滿足する程の寳を招かん ▲三碧 萬事有利に展開せんとする日怠るべからず ▲四綠 盛氣盛なれども實力は之に伴ひ難き危險日 ▲五黃 內わに面だうなる事起らんとする日親和專一 ▲六白 運氣佳なれど安心に過ぐ可らず失物に注意 ▲七赤 外敵を防ぎて內を守れ迷惑の起る事あり ▲八白 諸事失敗の兆あり消極的に處理するが安全 ▲九紫 遠方より幸便來る事あり家業大事に怠るな

御中元の御贈答に 商品券を 御利用下さいませ
ふかや洋服店 平三 電203

お盆提灯大賣出し
一見涼風湧く優秀品 特製 新型行燈
變り型は數百種も御座います。御一覧下さい。
尙本年度より製造元にて新製品は昭和十一年製の責任マークを入れてあります。御注意下さい。

平二丁目 福多屋

◉お新盆提灯に御注意!!!
近年各地に於て再製提灯が市場へ出る爲めお贈りの方も頂いた方も誠に迷惑され又失禮にもなりますので製造者の間で相談の上今年の品物へは必ず昭和十一年製青色マークを入れてあります。御買求めの際は必ず御忘れなく昭和十一年製マーク入と御指命下さい。
昭和十一年八月 提灯同業組合

佛ダン 御位牌 其他佛具一式
舊御盆に際し特に大勉强致します。
平町五丁目 吉野屋漆器店 電話五五四番

七夕祭飾附品
七夕祭材料紙格安勉强致します
五色染紙 金銀紙 色セロファン紙
色テープ 色艶紙 色パラピン紙
久壽玉用……色ライス紙・櫻紙
和洋紙 文具 坂本紙店 平町一丁目 電話一八番
パイロット萬年筆 セーラー萬年筆 特約店

氷水 冷いおいしい 夏の飲物各種
アイスクリーム アヅキアイス ミルクセーキ リーダ水 みつ豆 其他各種 出前迅速
御散步には是非御出下さい。
平町一丁目 藤寅 電話一四一番

內外 建築材 建具材
入 阿部材木店 磐城國平町（公園下） 阿部好利 改メ（章） 電話四九四番